

つきたい力

- ・自分の思いや考えを表現する力
- ・図書での情報の収集や活用をする力

取組みの概要・ポイント

- ルーブリックやつきたい力を明確にした授業づくり
- 単元の中に学校図書館・図書活用を位置づける

東小HP  
モデル校の  
取組み



学校公開  
全体会の  
スライド



具体的な取組みの内容

授業の構造化

○6年間を意識したスキルの習得・活用  
卒業時につけてほしい姿を共有し、そこから各学年の発達段階に応じた学び方のスキルの習得・活用をめざしている。

○学習のゴールを示す  
児童に単元計画や学習のゴール、ルーブリックなどを予め示すことで、見通しを持ち、つきたい力を明確に意識できるようにする。

○相手を意識した言語活動を学習活動に位置付ける  
さまざまな教科に言語活動を取り入れる。習得したスキルの中から最適な発信方法を選ぶ。自分の思いや考えが伝わったことを実感できるよう、話す対象を明確にし、話す・聞かときのポイントを示している。

学び方スキルの習得から活用までのイメージ図



学習計画の例

がくしゅうけいかく

- 1 ・がくしゅうけいかくをしらう。  
・はなしをたのしくつなぐポイントをかんがえよう。
- 2 はなしをするだいいのしゅんをどう。
- 3 はなしをかんがえよう。
- 4 はなしをつなぐれんしゅうをしよう。
- 5 ★グループではなしをつなごう【あいうえおトーク】
- 6 がくしゅうをふりかえろう。

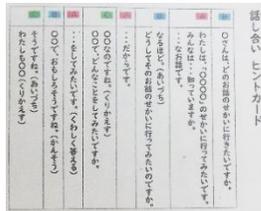
ルーブリックの例

これができたら

S:★★★  
①友だちからのアドバイスを聞いて、自分の考えをレベルアップさせることができる。  
②友だちからのアドバイスを聞いて、見出しに合うようにひみつ発見メモをえらび直すことができる。  
③友だちからのアドバイスを聞いて、内よを書き直すことができる。

A:★★  
自分なりにせいりすることができる。

低学年 話し合いヒントカード



高学年 話し合い 質問の技カード

質問の技カード 名前( )

オープンクエスチョン →答えを広く、深い見聞の例	クローズドクエスチョン →情報やハッキリする見聞の例
<ul style="list-style-type: none"> <li>①何という?</li> <li>②どう感じる?</li> <li>③もう少し詳しく教えてください。</li> <li>④どうして?</li> <li>⑤具体的にどんな感じ?</li> <li>⑥どんなイメージ?</li> <li>⑦その理由を教えてください。</li> <li>⑧何でもないですか?</li> <li>⑨ほかには?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①数字(日付、回数、価格)</li> <li>②名数(人数、商品名、場所名)</li> </ul> <p>あいつの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ううん。</li> <li>②なるほど、なるほど、そうかも。</li> <li>③わかる、わかる。</li> <li>④そうなんだ。</li> <li>⑤へー、</li> <li>⑥まだある。</li> </ul>

系統性を意識した指導

○言語体系表の作成  
「児童の実態」・「学習指導要領」・「大阪府情報活用能力ステップシート」から「計画」「学校図書館の活用」「ICT機器の活用」「地域未来の学習」の4点を軸とした本校独自の体系表を作成し、言語能力を育むための系統立てた指導を行っている。

学校図書館の活用・図書委員会との連携

○調べ学習  
単元に関連する図書を学年に貸し出し、学級や学年フロアにコーナーを設置。授業の中ですぐに図書で調べられる環境を作ることで、学びの選択肢を広げられるようにしている。

○学校司書との連携  
学習内容に応じて、授業に参加したり、動画で説明したりすることで図書の活用例を示し、積極的に児童が図書を使えるようにしている。

○図書委員会の活動・企画  
毎日の図書館放送、本のクイズラリーや葉の作成、表彰状の作成、各学級へ読み聞かせに行くなど、図書行事やイベントを主体的に行っている。

東小 言語体系表 概要図



東小 言語体系表 詳細図



取組みを通しての子どもの変容

- 自分の考えを積極的に表現しようとする姿が多く見られるようになった。
- 相手の話を聴き、あいつちや質問をする姿が多く見られるようになった。
- 10月までの貸出冊数が前年度より11%上昇した。(34,664冊→38,481冊)

アンケート項目	R6年度 3月	R7年度 12月
自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している。	82%	88%
文章を書いた後は、読み手に内容が正確に伝わるかどうか、ことばの見直しをしている。	77%	86%
以前より読書への興味が深まった。	80%	84%